②第９回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園

大阪商業大学 経済学部 経済学科 専任講師
起業教育委員会 委員　柴田孝

1．はじめに



受賞者全員での記念撮影

全国高等学校ビジネスアイディア甲子園は、全国の高校生を対象に、自由な発想で考えられた独自のビジネスアイディアを募集する大阪商業大学と毎日新聞社との共催によるコンテストである。毎年開催され2010年度で第９回となった本年度は、全国140校から5702件の応募を得た。本年度は、従来の規定を変更し、応募者によるプレゼンテーションに基づいて受賞作品を決定することとした。最終選考に進んだ５件のアイディアについて2010年12月11日に大阪商業大蒼天ホールにて応募者によるプレゼンテーション審査がなされ、グランプリには『高齢者電話サービス（詐欺防止！生活安心サービス）』（愛媛県立弓削高等学校１年パソコン部Ｂ　古本力／佐伯流星／竹内哲也／山下一将（敬称略））が選ばれた。準グランプリとして２作品、審査員特別賞として２作品が選ばれ、学校賞が24校に贈られた。本稿では、第２節でこの企画の概要および結果について述べ、第３節で本年度の規定変更のねらいについて説明し、第４節の審査委員長による講評で稿を閉じる。

2．第９回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園の概要


ゲスト審査員である大阪市立天王寺動物園名誉園長　宮下実氏による講演

大阪商業大学と毎日新聞社との共催による本コンテストは、全国の高校生を対象に、自由な発想で考えられた独自のビジネスアイディアを募集するものである。大阪商業大学・毎日新聞社の審査員に、ゲスト審査員として外部審査員を１名迎えて構成される審査委員会が、規定の応募用紙上に表現されたオリジナルなビジネスアイディアを審査し受

賞作品を決定する（なお規定の応募用紙に加えてA4サイズ1枚までの追加資料を添付することを認めている）。本年度はゲスト審査員に、大阪市立天王寺動物園の宮下実名誉園長をお迎えして審査を行った。審査の手順は以下のものである。期間内の応募作品について、応募用紙に基づいて事前審査をおこない、最終審査へと進む作品を選抜する。12月に開かれる最終審査会では、事前審査を通過した候補者が、各自のアイディアについてプレゼンテーションを行い、それをふまえて各賞を決定する。このプレゼンテーションに基づいて最終審査を行うこととした点が第9回からの規定の変更点である。

（1）実施要項

【応募期間】　2010年9月1日から10月9日まで（10月9日必着）

【応募資格】　全国の高校生（グループでの参加も可能）

【応募方法】　所定の応募用紙と応募者フェイスシートに必要事項を記入のうえ、郵送または事務局窓口への持参にて応募する。追加資料はA4サイズ1枚まで認められる。規定を超えるものについては審査の対象外となる。

【審査方法】

事前審査：応募書類に基づく書類選考

最終審査：書類審査とプレゼンテーション審査（口頭発表：持ち時間5分）に基づく総合評価

【審査員】　大阪商業大学、毎日新聞社、大阪市立天王寺動物園名誉園長　宮下実

【主　催】　大阪商業大学，毎日新聞社

【後　援】　経済産業省、大阪府教育委員会、東大阪市、東大阪市教育委員会、大阪市教育委員会、全国商業高等学校協会

（2）審査基準

個人賞（グランプリ・準グランプリ・審査員特別賞）については、事前審査ならびに最終審査を経て決定する。事前審査と最終審査では共通して、①他の事例との違いがあるか（新規性・着眼点）、②ニーズがあるか（市場性）・収益をうむか（実現可能性）の観点から審査をおこなう。

最終審査では、応募者自らが、アイディアの特徴や魅力に加えてアイディアにかける熱意についてプレゼンテーションをおこない、それについて上記の基準に基づいて審査をおこなう。プレゼンテーションをおこなうが審査はアイディアの内容にたいして実施されるもので、プレゼンテーション技術は評価の対象ではない点

を強調しておく。したがってパワーポイント等の使用も必須ではない。

学校賞は、全国高等学校ビジネスアイディア甲子園に積極的に取り組んでいただいている高等学校に対して贈られる。評価は数量基準に基づいて実施され、①作品をたくさん応募していただいた学校、②多く応募していただいた中から事前審査における一次審査通過率の高い学校、の2つの基準に基づく。ビジネスアイディア甲子園に貢献いただいている、あるいは頑張って取り組んでいるという高校を対象に表彰させていただいているものである。

（3）第9回ビジネスアイディア甲子園各賞



今年度よりプレゼンテーションも最終審査の対象とした。

【グランプリ】（1件）

『高齢者電話サービス（詐欺防止！生活安心サービス）』

愛媛県立　弓削高等学校　1年　パソコン部B　古本力／佐伯流星／竹内哲也／山下一将

【準グランプリ】（2件）

『オーダーメイド・ブックストア』

広尾学園中学・高等学校　2年　浅見祐美子

『めぶきの家』

兵庫県立　西宮高等学校　1年　核家族化対策班　中山樹／園山拓実／中田美保／野本和歩／西岡侑希子

【審査員特別賞】（2件）

『ご近所ペット』

静岡県立　伊東商業高等学校　1年　後藤圭介

『災害おたすけナビ』

滋賀県立　大津商業高等学校　2年　大橋美月



交流会での記念撮影

【学校賞】（24校）

北海道立　北海道札幌東商業高等学校	札幌市立　北海道札幌啓北商業高等学校
秋田市立　秋田商業高等学校	福島県立　福島商業高等学校
東京都立　芝商業高等学校	富士見中学高等学校
横浜市立　横浜商業高等学校	富山県立　高岡商業高等学校
静岡県立　伊東商業高等学校	静岡県立　浜松大平台高等学校
静岡県立　浜松東高等学校	愛知県立　一宮商業高等学校
滋賀県立　大津商業高等学校	京都府立　京都すばる高等学校
大阪市立　天王寺商業高等学校	大阪市立　市岡商業高等学校
大阪女子短期大学高等学校	大阪市立　東商業高等学校
大阪府立　門真西高等学校	兵庫県立　神戸商業高等学校
奈良県立　榛生昇陽高等学校	岡山県立　岡山東商業高等学校
岡山県立　岡山南高等学校	山口県立　青嶺高等学校

3．本年度の規定変更のねらい

これまでの繰り返しになるが、本年度から応募者によるプレゼンテーションに基づいて各賞の決定をおこなうこととした。8回までの実施をふまえて高校の先生方のご意見を頂きながら色々と検討した結果、課題として次の2点があげられた。第1は、高校生のみなさんに、最後に一度、公開の場でプレゼンテーションをする経験の場を用意すること、第2は、応募件数が 6000 件にとどこうかという大規模なコンテストにおいて、その審査の公開性を高める取組が求められているということである。今年度で9回目となるが、関係する皆さまの意見をいただきながらより良いコンテストにしていく取組の一つとして規定変更を実施した。

前年度まではすべて書面のみで審査を実施してきたことと比べると、5,702 件の応募作品のうち、最終審査に進んだ5件の作品が、いかなるアイディアか応募者により公開の場で説明がなされ、それに基づいて審査した点で、公開性が高まったと考えている。今後は、参加高校をはじめ広く意見を募り、さらなる改善をはかるものである。

4．審査委員長講評

今回でこの全国高等学校ビジネスアイディア甲子園も9回を迎えました。全国の大学に先駆けて、大阪商業大学がこの高校生のみなさんからアイディアを募ってコンテストをするというこの企画も、もうすぐ 10 年を迎えようとしています。毎年

6000 件前後の応募を頂くまでになり、第9回となる今年度は 5702 件の応募をいただきました。そして、ご参加いただいた高校の数は今年度 140 校と過去最高となりました。

かなり大きな規模のコンテストになってきたということもあり、今回は各賞の決定を、プレゼンテーションに基づく審査会という形で行わせていただくことになりました。より良いコンテストにするべく、高校の先生のご意見を頂きながら色々と検討した結果、高校生のみなさんに公開の場でプレゼンをするという機会を用意することの重要さに加えて、この大規模な審査の公開性を高める必要性があるという結論に至り、初めての取組として実施することになりました。

最終的にノミネートされた5作品については、5702 件の内の5件ということで、倍率 1100 倍の難関をくぐり抜けてきた素晴らしいアイディアであるという点を十分にご認識いただきたいと思います。

今回のビジネスアイディアについて、3つほど特徴を申しあげることができるかと思います。第1に、自転車、携帯に関するアイディアのように自分の身近なところから導かれたアイディアが減少する傾向にある点です。第2に、最終審査に進んだアイディアも含めて全体的にも言えることですが、社会的な問題に着目したものが多くなってきていることです。そして第3には、インターネットなどを活用した情報通信技術(Information and Communication Technology, 以下 ICT と呼ぶ)を使って問題解決しようとするアイディアが多いことです。これら3つの特徴が全体としてみてとれます。

そして、受賞された各作品については、いろいろな要素の組み合わせ、これがポイントになっていると思います。

グランプリ作品「高齢者電話サービス」は、犯罪という社会問題、そして高齢者という社会問題、これを情報技術で解決しようというアイディアです。このアイディアのおもしろいところは、犯罪を防ぐために、従来ある注意喚起にとどまらず積極的に何か対応できるものはないかということを考えたところにあったと思います。思いつきそうで思いつかない、そういった視点のユニークさがあり、また簡単なアイディアであったところが、わかりやすくて逆にインパクトが出たところではなかったかなと思います。

準グランプリ作品の一つ目である「オーダーメイド・ブックストア」は、紙文化と読者ニーズの多様化を ICT の技術で解決しようというアイディアです。電子書籍ブームと、書店という実店舗経営の融合という新しい可能性を提案したところが高く評価されたと考えます。準グランプリ作品の二つ目である「めぶきの家」は、労働と子育てという社会問題、これを今度は ICT ではなく、ただ一つアナログなア

イディアでございましたが、保育施設という制度、施設で解決しようというアイディアです。地域・コミュニティの活性化、これに繋がるアイディアということでございまして、社会の資源、退職者という労働力の社会の資源を、子育てという社会のニーズとマッチングさせたというユニークな視点に加えて、事業計画までかなり詳細に練られており、またデータの集め方も非常に良く、こうした点が評価されました。

審査員特別賞作品の一つ目である「災害おたすけナビ」は、災害という社会問題、そして、ユニバーサルの考え方、これをICTの技術で解決しようというアイディアです。二つ目の「ご近所ペット」は、ペットを飼うという癒しにも通じる現代社会の潮流と、地域のボランティアともいえる小さな労働ニーズとをICTで組み合わせてお互いのニーズをうまくマッチングする、コミュニティビジネスの可能性を提案した点が高く評価されました。

いずれにせよ5702件の中から選ばれた5件について、優劣をつけること自体非常に困難であるということをご了解いただいて、その中でも順番をつけるとすれば、ねらいのわかりやすさ、あるいは視点のユニークさに今回の最終審査は注目したというようにご理解いただきたいと思います。次年度も高校生のみずみずしい感性にあふれた新たな作品の応募をお待ちしております。